

でん粉の価格調整業務実績について (令和3でん粉年度)

特産調整部、特産業務部

はじめに

当機構では「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」に基づき、コーンスターチ用輸入とうもろこしおよび輸入でん粉から調整金を徴収し、それを財源として国内のでん粉原料用かんしょ生産者やいもでん粉製造事業者に支援を行うことで内外価格差を調整し、国内のでん粉の安定的な供給の確保を図っている。

本稿では、令和3でん粉年度（令和3年10月1日～令和4年9月30日〈以下「3SY」という〉）におけるでん粉の価格調整業務実績について取りまとめたので、報告する。

なお、令和3砂糖年度における砂糖の価格調整業

務実績については、本誌2023年1月号において報告する予定である。

1 調整金徴収業務

(1) 3SYの指標価格等

3SYの指標価格等は表1の通り。

(2) でん粉の需要と供給

令和4年9月に農林水産省が公表したでん粉の需給見通し（以下「需給見通し」という）によると、3SYのでん粉の需給見通しは、表2、3の通り（詳細は、本誌2022年11月号参照）。

表1 3SYの指標価格等

	令和元SY	2SY	3SY
でん粉調整基準価格（円/トン）	161,010	165,970	165,960
前年比（円）	+ 4,110	+ 4,960	▲ 10
指定でん粉等調整率（%）	4.354	4.173	4.483
前年比（ポイント）	▲ 0.112	▲ 0.181	+ 0.310

注1：各でん粉年度告示番号（令和元年9月30日農林水産省告示第946号、令和2年9月30日農林水産省告示第1846号、令和3年9月30日農林水産省告示第1637号）。

注2：でん粉調整基準価格とは、輸入でん粉等と国内産いもでん粉との価格調整の基準となる額。

注3：指定でん粉等調整率とは、輸入でん粉等の輸入者から徴収する調整金の負担水準を定める率。
内外のでん粉コスト格差に当該率を乗じて、調整金単価を算定。

表2 でん粉の需給見通し

(単位：千トン)

		令和2 でん粉年度 (実績)	令和3でん粉年度（見込み）			令和4でん粉年度（見通し）		
			10－3月	4－9月	計	10－3月	4－9月	計
需要	糖化製品	1,625	736	886	1,622	782	893	1,675
	化工でん粉	265	134	133	266	136	141	277
	その他（製紙用、ピール用、片栗粉など）	493	245	290	535	242	295	538
	合 計	2,382			2,423			2,490
供給	前年度繰り越し	32			40			21
	国産いもでん粉（生産量）	186	171	－	171	186	－	186
	かんしょでん粉	21	21	－	21	27	－	27
	ばれいしょでん粉	165	150	－	150	159	－	159
	調整金 徴収 対象							
	コーンスターチ	2,048	944	1,133	2,078	983	1,148	2,130
	輸入でん粉 （糖化製品、化工でん粉用）	131	60	68	128	68	68	136
	輸入でん粉（その他用）	9	6	7	13	7	7	14
	小麦でん粉	15	8	8	16	8	8	16
	合 計	2,422			2,445			2,502
次年度繰り越し		40			21			12

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：でん粉年度とは、10月から翌年9月まで。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

表3 でん粉需給の推移

需要

(単位：千トン) 供給

(単位：千トン)

でん粉 年 度	供給量計	糖化製品 (異性化糖・ 水あめ等)	化 工 でん粉	その他	繊維・製紙 段ボール	ピール	畜水産 練製品	その他	でん粉 年 度	供給量計	かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	コーン スターチ	輸 入 でん粉	小 麦 でん粉
平成23	2,683	1,796	319	569	172	98	16	283	平成23	2,683	45	168	2,307	145	19
24	2,623	1,803	296	525	161	100	16	248	24	2,623	36	169	2,258	142	18
25	2,637	1,792	312	533	179	99	18	237	25	2,637	39	175	2,266	140	17
26	2,568	1,721	324	523	182	98	17	226	26	2,568	39	186	2,190	136	18
27	2,658	1,754	336	568	190	98	17	263	27	2,658	36	197	2,273	135	17
28	2,653	1,753	337	564	200	96	16	252	28	2,653	37	175	2,271	152	17
29	2,673	1,737	323	614	198	92	15	309	29	2,673	31	178	2,303	144	17
30	2,656	1,772	328	557	207	86	15	250	30	2,656	27	168	2,295	150	17
令和元	2,462	1,666	301	495	184	71	13	227	令和元	2,462	27	164	2,108	148	16
2	2,382	1,625	265	493	183	65	14	230	2	2,382	22	156	2,048	141	15
3 (見込み)	2,423	1,622	266	535	193	70	14	258	3 (見込み)	2,423	23	166	2,078	141	16
4 (見通し)	2,490	1,675	277	538	193	71	14	260	4 (見通し)	2,490	27	168	2,130	150	16

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：その他の欄のその他は、片栗粉、菓子、麺類、調味料、建材、医薬、飼料などの需要量の計である。

注2：供給数量は、かんしょでん粉およびばれいしょでん粉について、前年度繰り越し分を加え、次年度繰り越し分を減じている。

注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

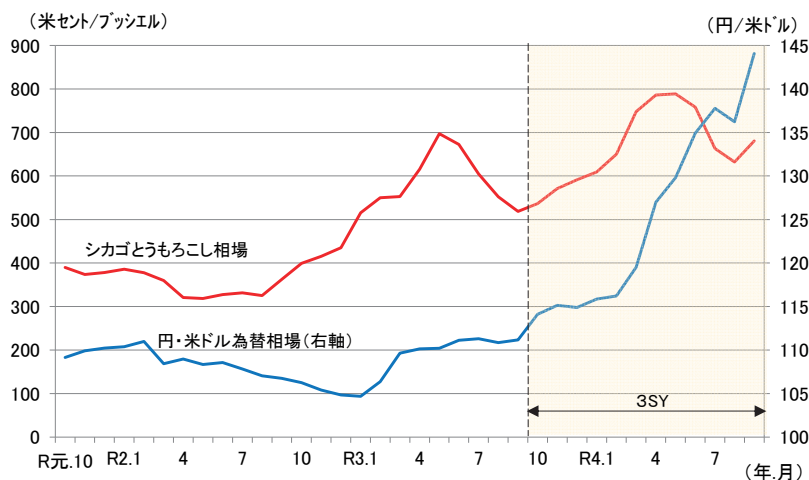
(3) 国際相場などの動き

シカゴ先物相場（期近）は、3SY当初は米国農務省によるとうもろこしの増産予測を受け1ブッシェル当たり500米セント台であったものの、中国における肉豚飼養頭数の回復による飼料需要の増加などを受け、徐々に上昇した。令和4年2月以降、ロシアのウクライナ侵攻に端を発する穀物相場の急激な上昇により、5月には同800米セント近くまで上昇した。その後、7月になるとウクライナからの穀物輸出の再開が報じられたことで一時的に下落

したが、8月以降、米国中西部における高温乾燥により生産見通しが引き下げられたことなどを受け、再び上昇し、3SY末には同700米セントに近い水準となった。

一方、米ドルの為替相場は、令和3年10月に1米ドル114円の水準でスタートしたが、令和4年3月以降、米国の長期金利の上昇などで急速に進行した円安の影響を受け、3SY末には145円の水準となった（図1）。

図1 米国産とうもろこしのシカゴ先物相場（期近）と為替相場の推移



(4) 指定でん粉等の平均輸入価格等

3SYにおける指定でん粉等の平均輸入価格等は表4の通り。

表4 指定でん粉等の平均輸入価格等

SY		平均輸入価格 (円/トン)	でん粉 (円/トン)			とうもろこし (円/トン)			とうもろこしシカゴ相場		為替 (円/米ドル)
			買入価格	売戻価格	調整金単価	買入価格	売戻価格	調整金単価	(米ドル/ ブッシェル)	(米ドル/トン)	
令和元	令和元年 10月~12月	62,820	62,820	67,095	4,275	37,786	40,693	2,907	3.95	155.34	108.36
	2年 1月~3月	62,940	62,940	67,210	4,270	37,858	40,762	2,904	3.80	149.50	109.57
	2年 4月~6月	62,680	62,680	66,961	4,281	37,776	40,687	2,911	3.79	149.05	109.81
	2年 7月~9月	58,210	58,210	62,686	4,476	34,645	37,689	3,044	3.24	127.74	108.82
2	2年 10月~12月	58,640	58,640	63,119	4,479	34,534	37,580	3,046	3.35	132.01	107.32
	3年 1月~3月	64,770	64,770	68,993	4,223	38,793	41,665	2,872	4.08	160.77	105.68
	3年 4月~6月	74,160	74,160	77,991	3,831	45,672	48,277	2,605	5.31	209.19	106.44
	3年 7月~9月	82,560	82,560	86,041	3,481	52,191	54,558	2,367	6.50	255.75	110.34
3	3年 10月~12月	80,320	80,320	84,159	3,839	50,494	53,105	2,611	5.71	224.76	111.08
	4年 1月~3月	85,190	85,190	88,811	3,621	53,899	56,361	2,462	5.61	220.80	114.41
	4年 4月~6月	92,630	92,630	95,917	3,287	59,152	61,387	2,235	6.58	259.02	116.55
	4年 7月~9月	106,930	106,930	109,576	2,646	69,538	71,338	1,800	7.77	305.90	129.34

(5) 売買実績

3SYの売買数量は、輸入でん粉が前年度比3.1%増の13万5000トンと、外食需要の回復などにより増加した一方で、でん粉供給量の大半を占めるコーンスターチ用輸入とうもろこしについては、コロナ禍からの需要回復が緩慢であったことなどを受け同0.3%減の300万3000トンと前年度をわずかに下回った。

売買差額は、シカゴとうもろこし相場の続伸や円

安・米ドル高で推移する為替相場、原油価格上昇に伴う海上運賃の上昇などの影響から、輸入とうもろこしなどの平均価格が上昇し、年度を通じてでん粉調整金単価が低い水準で推移したことを受け、輸入でん粉が同14.1%減の4億4500万円、コーンスターチ用輸入とうもろこしが同16.9%減の67億4900万円、合計で同16.7%減の71億9400万円と前年度を大幅に下回った（表5）。

表5 指定でん粉等の売買実績

SY	輸入でん粉		コーンスターチ用輸入とうもろこし		売買差額合計 (百万円)
	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	
令和元	142	613	3,100	9,120	9,733
2	131	518	3,012	8,123	8,641
3	135	445	3,003	6,749	7,194

2 交付金交付業務など

(1) でん粉原料用いもおよび国内産いもでん粉の生産動向

ア. でん粉原料用ばれいしょ・ばれいしょでん粉

北海道のばれいしょ生産は、近年170万～190万トン程度で推移しており、その約4割がでん粉原

料用に仕向けられているが、作付面積および収穫量は減少傾向にある。

3SYについて、需給見通しによると、夏場の高温・少雨による不作の影響を受けばれいしょの収穫量が減少したことから、ばれいしょでん粉の生産量は、前年度比8.6%減の14万8000トンとなる見込みである（表6）。

表6 でん粉原料用ばれいしょ・ばれいしょでん粉の生産動向

SY	作付面積 (千ha)	単収 (kg/10a)	収穫量 (千トン)	うちでん粉原料用 生産量 (千トン)	でん粉生産量 (千トン)
令和元	49.6	3,810	1,890	820	178
2	48.1	3,600	1,733	730	162
3（見込み）	47.1	3,580	1,686	701	148

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

イ. でん粉原料用かんしょ・かんしょでん粉

南九州のかんしょ生産は、生産者の高齢化による離農を主たる要因として、作付面積および収穫量ともに減少傾向にある。

3SYについて、需給見通しによると、サツマイ

も^{もとぐされ}基腐病（立枯症状や塊根部が腐敗する症状）の発生によりかんしょの収穫量が減少したことから、かんしょでん粉の生産量は前年度並みの2万1000トンと、2年度連続で過去最低となる見込みである（表7）。

表7 でん粉原料用かんしょ・かんしょでん粉の生産動向

SY	作付面積 (千ha)	単収 (kg/10a)	収穫量 (千トン)	うちでん粉原料用 生産量 (千トン)	でん粉生産量 (千トン)
令和元	14.6	2,342	342	93	28
2	13.9	2,043	284	72	21
3(見込み)	13.3	1,964	262	70	21

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

(2) 交付金の交付状況など

ア. でん粉原料用いも交付金（でん粉原料用かんしょのみ）

収穫期はおおむね9月から12月であり、いもでん粉製造事業者への売り渡しに応じて交付金を交付している。

3SYについては、交付金単価がトン当たり770円引き上げられたものの、サツマイモ基腐病の影響でかんしょ生産量が減少したため、交付決定数量は前年度比2.8%減の7万トン、交付決定金額は同0.4%減の19億3200万円となった（表8）。

表8 でん粉原料用いも（かんしょ）交付金交付決定実績

SY	交付決定数量 (千トン)	交付決定金額 (百万円)
令和元	93	2,478
2	72	1,939
3	70	1,932

イ. 国内産いもでん粉交付金

ばれいしょでん粉およびかんしょでん粉の販売は年間を通じて行われ、これに応じて交付金を交付している（表9）。

(ア) ばれいしょでん粉の交付状況

3SYの交付実績は、ばれいしょ収穫量が減少したことを受け、交付決定数量は前年度比2.9%減の10万2000トンとわずかに減少、交付金額は同

10.0%減の18億8700万円とかなりの程度減少した。

(イ) かんしょでん粉の交付状況

3SYの交付実績は、サツマイモ基腐病によりかんしょ収穫量が減少したことを受け、交付決定数量は前年比4.2%減の2万3000トンとやや減少した。その一方で交付金額は同1.6%増の9億1300万円とわずかに増加した。

表9 国内産いもでん粉交付金交付実績

SY	ばれいしょでん粉		かんしょでん粉	
	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)	交付決定数量 (千トン)	交付金額 (百万円)
令和元	94	1,895	24	886
2	105	2,097	24	899
3	102	1,887	23	913

(3) 国庫納付金納付業務（でん粉原料用ばれいしょ）

でん粉原料用ばれいしょ生産者への農業の担い手に対する経営安定のための交付金の交付に要する経費の財源に充てるため、3SYにおいては、農林水産大臣からの通知に従い、調整金収入から41億9500万円を国庫に納付する予定である（表10）。

なお、調整金単価の下落により指定でん粉等の調整金収入が減少したことから、納付金額は前年度を下回る見込みである。

表10 国庫納付金納付実績の推移

SY	国庫納付金額 (百万円)
令和元	4,825
2	4,606
3（見込み）	4,195

(4) でん粉の価格調整業務における収支（見込み）

3SYの収入額は、夏場に清涼飲料向けの糖化製品の需要などがわずかに増加したものの、ウクライナ情勢に端を発する穀物相場高騰による調整金単価の下落が響き、調整金収入は前年度比14億円減となる72億円となった。

3SYの支出額のうち、ばれいしょでん粉の交付金額は同2億円減の19億円となった。かんしょでん粉およびでん粉原料用かんしょは、サツマイモ基腐病の影響で生産が減少したこともあり、ともに前年度並みの9億円、19億円となった。でん粉原料用ばれいしょへの支援として国の経営所得安定対策の財源として支出する国庫納付金は、調整金収入の減少のため前年度比4億円減の42億円と見込んでいる。これらの結果、支出合計は同6億円減となる89億円となる見込みである。

以上の結果、3SYにおける調整金収支は、17億円の赤字（前年度は9億円の赤字）が見込まれている（表11）。

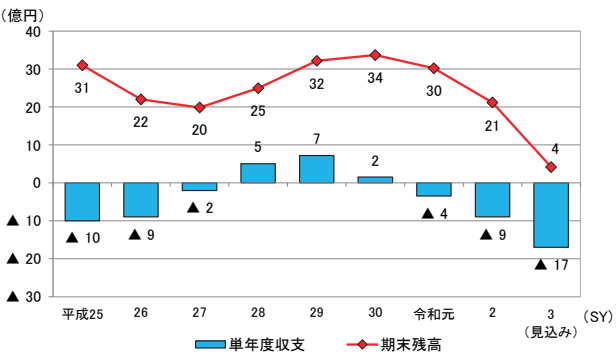
調整金の期末残高については、これまでは20～30億円程度で推移していたが、コロナ禍による需要減や穀物相場の高騰により3年連続で赤字が生じ、減少傾向となっており、3SY末は4億円となる見込みである。なお、年間を通して短期借入金は発生しなかった（図2）。

表11 3SYの収支前年比較

(単位：億円)

	令和元SY	2SY	3SY (見込み)	対2SY 増減
収入	97	86	72	▲14
支出	101	95	89	▲6
ばれいしょでん粉	19	21	19	▲2
かんしょでん粉	9	9	9	0
ばれいしょ (国庫納付)	48	46	42	▲4
かんしょ	25	19	19	0
単年度収支	▲4	▲9	▲17	▲8

図2 でん粉の調整金収支の推移



注：端数処理の関係で単年度収支と期末残高が一致しない場合がある。

